



2 2024

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700 (代表) TEL (06) 6946-3223 (直通) FAX (06) 6946-3224 (直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジタル)」 山口さん ☎0798-34-4228

☆ インボイスってなあに? (2画) ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 ☆ ラジオ「信仰の時間」 (3画) ☆ イエスにならう ☆ ガラシア健康だより (5画) ☆ 生きるー難民移住者 (4画) 中島貴幸神父 生き方を求めて 『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

☆ 生きるー難民移住者 (5画) ☆ ガラシア健康だより (5画) ☆ ラジオ「信仰の時間」 (3画) ☆ インボイスってなあに? (2画) ☆ イエスにならう (4画) ☆ 生きる方を求めて (5画) 『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

前田大司教を囲んで 新しい船出を祝う

旧高松教区カテドラル桜町教会にて

1974年05月23日 イタリア共和国ロンバルディア(Lombardia)州ベルガモ(Bergamo)トレヴィーリオ(Treviglio)に生まれる。2003年 助祭叙階。2004年6月12日 司祭叙階。

東京教区 アンドレア・レンボ補佐司教叙階

2009年4月来日東京で日本語研修。2012年習志野教会助任司祭。2014年一般社団法人船橋学習センター「ガリヤ」副理事長。2017年府中教会主任司祭、同年5月カトリック・ミラノ外国宣教会管区長。2021年一般社団法人船橋学習センター「ガリヤ」理事長。同年6月公益財団法人真生会館理事長に歴任。2023年9月16日 東京大司教区補佐司教に任命。同年12月16日 司教叙階。



11月11日、大阪高松大司教区のもう一つのカテドラル(共同司教座聖堂)である桜町教会でささげられた設立感謝ミサには、フアブリス・リヴェエ臨時代理教皇大使、大阪から前田大司教、酒井俊弘補佐司教と7人の司祭、四国から諏訪名譽司教と17人の司祭・助祭が参加し、心を合わせて祈りを捧げた。

設立式ミサが、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で10月9日にささげられてから1カ月後、11月11日、共同司教座聖堂である桜町教会(香川県高松市)で、設立感謝ミサが捧げられた。四国各地から約170人の信徒が集まり、前田万葉大司教を囲んで、感謝のうちに新教区の出発を祝った。

新教区設立感謝ミサ



信徒からの質問に笑顔で応える前田万葉大司教



ミサの冒頭では、フアブリス・リヴェエ臨時代理大使のあいさつの後、大勅書が提示され大阪高松大司教区の設立が厳かに報告された。集会祈願で「いくしみな深い神よ、あなたは計り知れない恵みによって、しもべ わたくし(前田大司教)を選び、大阪高松教区の牧者としてくださいました。大司教の務めをふさわしく果たすことができるように力づけてください」と祈られ、共同祈願でも「新しく歩み始める大阪高松大司教区の初代教区長に、トマス・アクイナス前田万葉大司教を選んでくださったことを感謝します。前田大司教を守り、強め、導いてください」とあったように、前田大司教を中心に旧高松教区民と旧大阪教区民が

これまで培ってきた体験を生かし合い、「ともに歩み、交わりの中で福音を知らせる」とのシノドスの精神を生きていくことができるようにとの願いが込められたミサになった。ミサの最後に行われた設立記念セレモニーでは、



四国各県の代表者から、メッセージとともに率直な一問一答が大司教と交わされ、新教区設立の意義が共有され、さまざまな課題についての理解が深まった。

今回の大阪高松大司教区の設立は、教区報(西部版)2号で、旧高松教区事務局長、小山一助祭が報告しているのとおり、高松教区からも大阪大司教区からも提案されたものではなく、突然の発表に驚きつつも一つになる準備を進めている状態である。



司教、司祭団入堂

また、少子高齢化という時代の流れの中、規模や歴史、文化も大きく違う二つの教区が一つになることについては、大きな不安があるものの一方では希望もあるのは確かだ。

福者コスト高山右近殉教者 列聖祈願のつどい・ミサ 2月3日(土)14時~17時 講話 14:20 / ミサ時間 15:45 講師: 中川博道神父(カルメル修道会) 司式: 前田万葉大司教 大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂

灰の水曜日 2月14日(水) 【大斎・小斎】 四旬節愛の献金開始 (四旬節中)



諏訪榮治郎司教へ感謝を込めて花束贈呈



インボイスってなあに？

インボイス制度とは、2023年10月1日から開始した複数税率に対応した消費税の仕入税額控除の方式です。インボイス制度導入後、仕入税額の発行・保存が必要になります。

インボイスQ&A

小教区で注意するポイントは POINT

- Q: 代金を支払ったときに気をつけることは？
- A: ①事業者の氏名または名称(スーパーなどの名前)と登録番号(Tで始まる13桁番号)
- ②取引年月日
 - ③取引内容
 - ④取引額を税率ごとに区分した合計
 - ⑤④に対する消費税額と摘要税率
 - ⑥請求書の受領者名



全部そろったものが適格請求書です。この請求書を保存してはじめて「インボイスがある」と言えます。適格請求書であっても、保存したものがなければ免税事業者と同じ扱いになります。適格簡易請求書では⑤は消費税額か摘要税率のどちらかがあれば良く、書類を受け取る事業者の氏名は必要ありません(スーパーのレシート等)。

小教区が保存しておくべき請求書やレシートの例



適格請求書

請求書

△△商事(株) 登録番号T012345...

△△商事(株) 登録番号T012345...
XX年11月30日

⑥ (株)〇〇御中 11月分 131,200円

日付	品名	金額
11/1	菓子 *	5,000円
11/1	ジュース *	10,000円
11/2	コピー用紙 *	2,000円
...
合計	120,000円	消費税 11,200円
8%対象	40,000円	消費税 3,200円
10%対象	80,000円	消費税 8,000円

⑤

③ * 軽減税率対象

適格簡易請求書

スーパー〇〇 大阪府 登録番号 T0123456...

XX年11月30日

領収書

ヨーグルト*	1	¥108
カップラーメン*	1	¥216
ビール	1	¥550
合計		¥874
8%対象	(内 消費税額)	¥24
10%対象	(内 消費税額)	50
お預り		¥1,000
お釣		¥126

④

⑤ 適用税率又は消費税額等のどちらかを記載 ※両方記載することも可能

小教区が発行する領収書の例

- Q: 領収書を発行するときに気をつけることは？
- A: Tで始まる13桁の登録番号を記載する (カトリック大阪高松大司教区の教区には4月以降ゴム印配布予定)。
- 消費税額と摘要税率を記入する。献金は「不課税」です。
- 領収証を発行するときも、受け取る時(上の例)と同じ内容を記載してつくりま

インボイスQ&A

- ※消費税について※
- 1. 内訳は税抜/税込どちらでもOK ただし、消費税率と消費税額の明記は必須。
 - 2. 軽減税率8%が含まれている場合は税率ごとに分けて表示。

領収書

〇〇〇会 御中 No. 発行日 2023年10月5日

金額 ¥5,000 (税込)

但 会館使用料 として
上記正に領収いたしました。

カトリック〇〇教会
〒***-*****
TE: ****-****
FAX: ****-****
登録番号: T 2120005002011

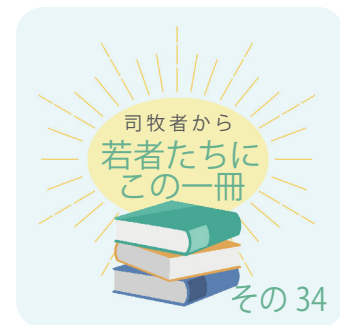
内訳
税抜金額 ¥4,545
消費税等 10% ¥455

印 紙 入

- ※登録番号について※
1. 記載場所は上部でも下部でもOK。
 2. Tの後ろは13桁
カトリック大阪高松大司教区は「T 2120005002011」
*ただし、教区の合併に伴い番号は変更される可能性があります。

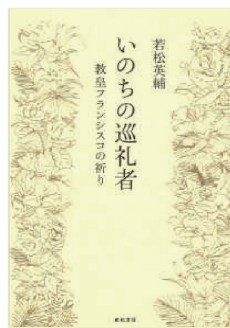
会計処理をおろそかにすると……？

会計上、インボイスの処理が正しくできないと、税金をたくさん支払うことになります。ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、ブラザー阿部光一(聖パウロ修道会)が担当。

ブラザー阿部光一からの二冊



『いのちの巡礼者 教皇フランシスコの祈り』(若松英輔著、亜紀書房、税込1430円)

この本の著者である若松英輔さんはメディアにもよく登場し、また評論家、随筆家として多くの著書を書いておられます。この本は、教皇の来日を迎える前のこと、来日の後のことを思い返しながら、わたしたちに教皇がなにを求めているか、この来日をどのように考え、これからにつなげていけばよいかをわたしたちに問いかけています。来日のテーマとなった「Project all life」すべてのいのちを守るため」何が必

要で、どうすることを求めているか、この本を読みながらいっしょに分ち合ってみてはと思います。

本文よりの引用を以下に紹介します

『祈りとは基本的に、ただそこに身を置いていてということだ。心を落ち着け、神が入ってくるための時間を作り、神に見つめてもらいなさい』(『すべてのいのちを守るため』)。

『わたしは記憶と未来にあふれるこの場所に、貧しい人たちの叫びも携えて参りました。貧しい人びとといつの時代も、憎しみと対立の無防備な犠牲者だからです。わたしは謹んで、声を発しても耳を貸してもらえない人たちの声になりたいと思います』(『すべてのいのちを守るため』)。

『いのち』を損なうことは、どんな理由があってもゆるされていない、と教皇は考えている。



『祈りへの招き』(森一弘著、発行サンパウロ、税込1540円)

信徒の中で「祈りができない」「祈る時間がない」という声を聞きます。特に若い人の間に。こういう私も修道者としてちゃんと祈れているのだろうか、と自問することがあります。

忙しさにまかされて、あるいは仕事に疲れて帰ってきて、一日を振り返る時間も取れないまま、休んでしまふこともよくあります。修道者にはミサがあり、共同で祈る時間がスケジュールの中にある、一緒に祈る仲間がいるということ、信徒の方々に比べ、恵まれているのに、です。信徒の方々の祈りはどのようなものだろうか、分かち合うことができればよいなと思うことがあります。

途中で、疲れ切った体を癒やし、体力を回復していくためには、止まり木が必要だと言われています。もし、止まり木を見いだせなければ、目的地に着く前に力尽きてしまうから、と言われていていきます。厳しい人生を歩まなければならぬ私たち人間にも、止まり木が必要です。私たち人間にとっての止まり木は、祈りです。

彼が書かれた一連の著書を見ると、信徒と一対一で、手紙などを通してやり取りしたものも多くあります。その中から生まれてくるものは、共感と思いやり、癒やし、慰めではないかと思えます。この本は聖書の中の言葉を選んで、祈りとはなんだろうか、どのように祈ればよいか、読む人一人ひとりに語りかけてくれます。ぜひ手に取って読んでみてほしい本です。

今回は、吉田利満神父様(サレジオ修道会)です。

ラジオ 信仰の時間

聖家族 アイデンティティー 私の根っ子

12月担当(12月31日放送分)

中島貴幸神父 (オプス・デイ属人区)

クリスマス祝った後の最初の日曜日は、聖家族を記念します。この機会に、あなたの家族について、感謝の心をもって、御一緒に考えてみましょう。

すべての人間を救うために、神ご自身が人間となってこの世界に入り、人間として救い主の働きを果たされました。キリストは、私たちとまったく同じ人生をたどりました。そして、救い主となる幼子をしっかりと育てていくために、神は、イエスの両親としてヨセフとマリアをお選びになりました。

新約聖書には、イエスの幼年時代と最後の3年間の活動を詳しく記していますが、30歳になるまでイエスが、どんな生活を送っていたのかは記されていません。しかし、この30年の沈黙は、かえって私たちに大切なことを教えています。聖書に記されているイエスの地上の最後の3年間の姿から、イエスがどんな教育を両親から受け、どんな風にナザレの村の人びとと関わり、どんな風に大工仕事を果たしていたのかを想像できるのです。

これは、すべての人にも共通していることでしょうか。たとえば、あなたが、今の自分を考えるとき、おのずと、記憶をたどりながら、自分を育ててくれた人びと、つまり、両親や親せき、兄弟姉妹、あるいは、近所の人びと、学校の先

生たちや、友人たちといった人びとのことが思い返され、その人たちとの交流を通して、今の自分という人格が形成されてきたことに気づくでしょう。

子ども時代の思い出、自分の家族との関係は、一人の人間のアイデンティティーと深くつながっています。「私」という存在は、今の私だけを見て、理解することはできません。人間は誰でも、まず、母親の愛情と助けによって、さらに、多くの人びとの支援を受けながら、自分のアイデンティティーを確立していき、こうして、今の自分があるわけです。

ですから、人間のアイデンティティー、つまり、「私はいったい何者なのか」という問いについて答えを探るとき、自分を生んでくれた人、自分を育ててくれた人との関係がその答えの根底にあることに気づくでしょう。

人間は、自分を知り、自分のアイデンティティーを確立し、それを受け入れた時にこそ、本当の幸せを味わえるのです。とするならば、自分の子どものころの家族についての思い出を掘り起こすことは、自分のアイデンティティーを探す作業でもあるのです。

日頃はこのようなことを思いめぐらす時間はあまりないかもしれません。しかし、年末年始や長期休暇などで、家族や兄弟や親せきたちと、思い出話で盛り上がる時、ここに自分のアイデンティティーがあったのだな……と、考えながら楽

しんではいかがでしょうか?

イエスは、確かに神の子でした。しかし、人間としては、マリアの子であり、ヨセフから大工としての教育を受け、この二人から、人としての生き方、人びととの関わり方を学びながら、アイデンティティーを築いて行ったことでしょう。

イエスの地上の生涯の最後の3年間は、いくつしみ、理解、ゆるし、なぐさめといった、神のやさしさを人びとに伝える日々でした。これは、間違いなく、マリアとヨセフの教育のたまものであったことでしょう。私たちも、家族との親密な時間の中で、自分のアイデンティティーを見つめ直しながら、あらためて、両親、兄弟、親戚の人びとへの感謝の心で過ごしていきたいでしょう。



バルトロメ・エステバン・ムリーリョ 『小鳥のいる聖家族』 マドリッド、プラド美術館蔵 © Museo Nacional del Prado

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
2月担当: 春名昌哉神父
ABC ラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリの radiko でも聴けます。



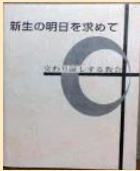
地域にとけこむ教会



旧大阪教区では、1995年の阪神・淡路大震災の後、「教区 新生計画」を発表し、社会の隅々にまで福音をゆき渡らせることのできる教会づくりを呼びかけました。この計画には、①「谷間」に置かれた人々の心を生きる教会、②交わりの教会といったことが、今後求めてく教会像として書かれています。今回は、私たちが地域の人々と交わり、ともに社会の福音化に向けて歩いていくためのヒントとして、「地域にとけこむ教会」の事例をご紹介します。

社会に開かれた教会とは？

大阪梅田ブロック 松浦 信行神父



新生計画が発表された後、ある司祭がこんなことを言っていたそうです。「皆さんは、社会人ではないのですか？色々なところで、社会と接しています。職場で、学校で、そして地域社会で。しかし、教会の中でそこでの体験は話題になりませんね」きっとこの司祭は、パチカン会議のこの文章を大切にしていたのだと思われます。

「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧しい人とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事がらで、キリストの弟子たちの心に反響を呼び起こさないものは一つもない」(現代世界憲章 1)

ある小教区では、教会活動を目に見える木(ツリー)の形で表わしてみようということになりました。典礼や結婚式、聖書講座や寄付集め、バザーなど。しかし、「あの人のアフリカ難民への活動はどうか」、「あの人の町のゴミ拾い運動はどうか」、「あの人の自治会での人生相談はどうか」...など、何人も人が小教区とは直接関わらない形で、社会の中で生きていました。その小教区では、そのような活動を私たち共同体メンバーがやっていることだと意識し、認知することで、その活動を支え、教会の活動になることを確認したのでした。

また、ある司祭は自治会の活動に積極的に参加したのですが、懇親会だけが増えることになって結局自治会を辞めてしまいました。時にはこのようなこともあります。私たちの日常活動をキリストのまなざしで再解釈するとき、「信仰の出来事」となるのです。

この地域社会との連帯感や、教会と離れた形での出来事でも、私たちの人生そのものが主と共に歩む大切な時なのだとその感受性の磨きが大切になっていく、その土台を深めていきたいものです。



新生計画の概要

コンサートを通して地域との交流が

和泉教会 新田 良子

1996年に和泉教会創立30周年記念ミサが行われ、その時のイベントで、私の長女が所属していた和泉市少年少女合唱団の子ども達が歌ってくれました。翌年に、和泉市少年少女合唱団と和泉教会共催の、「海の日コンサート」が教会聖堂で始まりました。初めの頃は、「教会ってどこにあるの?」とよく聞かれましたが、この頃ではこの質問をされることは少なくなりました。

2016年の和泉教会創立50周年記念ミサの年に、「第20回記念 海の日コンサート」を開催しました。毎年コンサートを実施するのは、出演者探しが大変ですが、コンサートを始めた頃は、地域の若手の音楽家の方たちが「力試し」にこのコンサートに出演してくださり、音楽性豊かなコンサートでした。



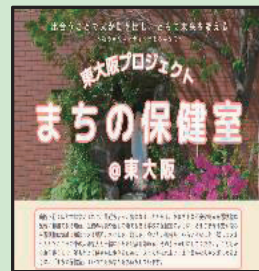
それと、もう一つこのコンサートの「売り」は、「ママの店」というケーキの販売です。スイーツ作りの得意な方々も協力してくださり、ケーキの販売(1個100円)も、地域の方々に好評です。

また、このコンサートを続けていく中で、和泉教会に「コーラスグループ ぶどうの木」というサークルが生まれ、信者でない方も一緒に歌ってくださっています。そして、「ぶどうの木」のメンバーで、2012年から2018年まで毎年、東日本大震災の被災地・福島県にボランティアに行っていました。それも、和泉市の「市民活動助成金」をもらって。

コロナ禍のために、2020年・2021年・2022年にはコンサートを開催できなかったのですが、2023年7月に「第24回 海の日コンサート」を復活させることができました。当初の「音楽性の高いコンサート」から、「身近なコンサート」に変化しましたが、今は和泉市のボランティアセンターから、出演者を紹介していただいています。「教会行事」とせず、地域の方々と一緒に実施してきたコンサートなので、今まで続けてきたように思います。

日常会話で話題になる教会に

布施教会では、昨年「まちの保健室」を毎月開いて、地域の人たちが集う場となっています。これは、大阪府看護協会が進めている活動で、病院に行くほどではないけれど、ちょっと気になる不安や悩みなどを相談できる場です。主催団体の「東大阪プロジェクト」は、医療従事者やケアマネージャー、社会保険労務士、司法書士など多様な職種の方々が参加して、在宅の患者さんやご家族のケアなどに取り組んでいます。取り組みの経緯や今後について、上田 憲神父にお話を伺いました。



「まちの保健室」を始めたきっかけは？

「東大阪プロジェクト」を立ち上げたクリニックの院長夫人(看護職)が私の同級生でした。布施教会に赴任した頃にプロジェクトが立ち上がったので、初めは個人として参加しました。関わる中で、「これは大事な活動だ」と思い、評議会に諮^{はか}って教会としてこの活動を受け入れることにしました。

どんな人たちが「まちの保健室」に来られますか？

ほとんどは、教会に初めて来られた人たちです。「ここに教会がある」と知ってくれるきっかけになればと思います。マリア像の前でたたずんでおられるのを見ると、嬉しくなります。昔、教会の幼稚園に通っていた人たちも来られます。長らく教会に通っていない信者さんもおられて、ミサに参加されるようになりました。

活動を続ける中で大切だと思うことは？

無理しないことです。「良いな」と思うことをやれば良い。医師や看護師を見ていると「すごいな」と思います。初めて会う人たちと本音で話し合っ^はて信頼関係を作っている。彼らの働きを見ていると、キリストの姿を感じるがあります。

「地域にとけこむ教会」とは？

地域の人たちとの関わりをもっと持ちたいと思います。セキュリティ面など、どこで線引きするのが難しいところもありますが、教会と地域の人たちとの間の「垣根」を無くしていけたらいいなと思います。町の人たちが、いつでも苦しみを相談できる場になればと思います。



東大阪プロジェクトの紹介

(聞き手: シナピス運営委員 嶋田 至)

ガラシア健康だより

介護予防 ～介護をする人受ける人へ～





大阪府箕面市に本拠を置く医療法人ガラシア会が、全6回の介護予防をテーマにした健康情報をお届けさせていただきます。みなさまの健康への一助になれば幸いです。

第5回 転倒の予防

令和4年度に厚生労働省は65歳以上の転倒による死亡者数が9,509人と報告しています。また、要介護の4番目の要因に転倒・骨折が挙げられています。転倒は人生を大きく左右する出来事になり得るため対策が重要になります。

転倒が生じる環境は、階段よりも平面上での転倒が多く、8割以上が平面上との報告もあります。家屋内では、浴室・脱衣所、ベッド・布団、玄関、階段、リビングが多いです。

今回は転倒予防のための住環境整備についてご紹介します。

浴室・脱衣所  シャワーチェア 座面が高く、ひじ掛け付きで立ち上がりやすい	 バスボード 台に座って浴槽への出入りができる立つのが不安定な方にオススメ 手すり 工事で壁に取り付けることも可能 工事不要の手すり(浴槽のふちに設置)もあります
ベッド周囲 手すり 起き上がりの最後に何かつかみたい方や両手で立ち上がりやすい方にオススメ	 ベッド周り ベッド欄 起き上がり立ち上がりに便利 歩き始めのふらつき対策にオススメ 「L」字に折れ曲がるL字欄 もあります 椅子を配置 ベッドから安全に移動できるところに椅子を置くことで寝たきり予防になります
階段・段差 蛍光テープの滑り止め 暗い階段で段の端をわかりやすくする滑り止めもオススメ	 リビング 動線上に不要物を置かない (不要なカーペットの除去、電気コードは壁に這わせる) 家具の配置を見直し、移動中の支えにする

住環境の整備は家具の配置や動線上の整理で解決できることも多いです。要介護認定を受けておられる方は住宅改修や福祉用具のレンタルを利用することが可能です。この機会にできることからご自宅の転倒予防策を講じてみてはいかがでしょうか？



介護老人保健施設ニューライフガラシアでの取り組み
ニューライフガラシアでは、皆さまに合った運動メニューをご提案させていただきます。転倒予防や生活維持への取り組みをおこなっています。また、ご利用者さまは、住環境について個別の相談や訪問指導も可能です。施設の利用をご検討されている方はいつでもお電話ください。

ニューライフガラシア 支援相談員
お問い合わせ：072-729-2346(担当)

「救済」難民救済者

そこまで教会が必死になって救う価値のある人間か

SNSの発達により、私たちは瞬時に世界の人びとに繋がるようになりました。SNSを通じて戦地から生々しい「助けて」の叫び声が私の耳元へ直接届くようになったのです。その声に突き動かされ、インターネットを駆使して、2021年にはアフガニスタンから数家族を国外へ退避させることができました。

私たちは、医師だったキアさんと、建設業を営んでいたアリさんの2家族を



と雇用契約を結んでビザの申請をしました。運よくキアさんには許可が下り、日本行きが実現しました。

一方アリさんは学歴がなく、ビザの要件を満たせませんでした。諦めずに方策を探ると、アリさんの知識と経験を生かす仕事をするとならビザの申請ができることわかりました。そこで私は入国管理局(以下入管)に「アリさんを雇って諸宗教融合型の礼拝部屋とか、墓を造ってもらう」と突飛な提案をしました。とその時、入管の人に言われたので「そこまで教会が必死になって救う価値のある人間ですか」。

アリさんは救うに値しない人間かどうか。教会を何だと思っているのか。ならば世界の教会ネットワークを使って大阪教区と協働で難民を受け入れる共同を探そうではないか、と私は思い立ちました。「スペインへかけあつてみよう」。そう伝えてくださったのはアベイヤ司教でした。司教さんがスペインのしかるべき筋に働きかけると、渡航は現実味を帯び始めました。しかし22年春世界の関心はウクライナへ移り、アリさん救出の話は潰れました。それでもアベイヤ司教は「次はブラジルへ」と、変わらぬ眼差しで動いてくださいました。23年秋、もはや打つ手が

訃報

Srセシリア 乗波田 雅子 (シヨファイユの幼きイエズス修道会) は、2023年12月30日、宝塚すみれ栄光園で老衰のため帰天。鹿児島出身。99歳。奉獻生活67年。



初誓願宣立後、主に養護施設や幼児教育に従事し本会各地の養護施設や幼稚園において、また各地の信愛女学院の事務、受付の担当者として奉仕した。1990年から福岡のサン・スルピス大神学院で司祭養成のために生活面で奉仕した。2011年4月から仁川本部修道院で院内奉仕の後、療養生活となり、祈りと穏やかな生活の中で出会う姉妹や人びとに、神様のいつくしみを証した。20年1月から宝塚すみれ栄光園で療養生活となり、23年12月に看取りの状態に入り、最後は静かに御父の御許に旅立った。

Srマリア・ヨハンナ山内ノシ(大阪聖ヨゼフ宣教修道会) は、2024年1月10日、ニューライフガラシアで老衰のため帰天。長崎県出身。93歳。奉獻生活73年。



いつも微笑みを絶やさず、明るく笑顔で人びとに関わり周囲が安心できる存在でした。旧大阪司教館の奉仕、玉造神学院の奉仕、司教館の

奉仕、修道共同体の院内奉仕に尽くし「みんなの元気を応援しているシスター」として親しまれた。修道会創立当初は戦後の食糧不足、荒れ地を開墾し、倉庫を修道院に改装するところから始まり、宣教活動の成長を支え協力した。当時の大阪教区長、田口芳五郎司教の要請で、苦楽を共に、聖ヨゼフの精神をもつて、謙虚にコツコツ働いた73年間の奉獻生活でした。



令和6年能登半島地震における募金のお願い

救援金は目的別に下記の振込先をご確認ください。第一次募金を2024年6月末まで行い、状況によって継続するかどうかをお知らせいたします。

《名古屋教区振込先》
目的：教会関連施設とその被災者支援のため
郵便振替口座番号：00810-5-50605
加入者名：カトリック名古屋教区
*通信欄に「のと地震」と明記してください。漢字が難しい方は「NOTO」か「のと」でも受け付けています。

《カリタスジャパン振込先》
目的：被災地での支援活動ならびに広く被災された方々への支援のため
郵便振替口座番号：00170-5-95979
加入者名：宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
*通信欄に「能登地震」と明記してください。ゆうちょダイレクトをご利用の方は、「ご依頼人番号」欄に当意の固有番号「6258」を入力

